

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会

連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>



若者 H. M. さん撮影

人の心を育てる大地の力。
前に踏み出す小さな希望がそこから
生まれる。

2月例会でお知らせいたしました
映画「アンダンテ」の上映にあたり、オリーブの会として、誰でもなり得る「ひきこもり」に対する社会の理解と啓発のため、協力することになりました。

稲の旋律の原作者：旭爪あかね氏の自らの対人恐怖の苦しみや、ひきこもり生活の体験を主人公千華に反映させた映画です。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(映画上映の日程等はチラシに掲載)

3月の例会を下記の通り開催いたしますので ご案内申し上げます。

第93回月例会ご案内

- 1) 日時 3月28日(日)
- 13:00～13:30 受付
- 13:30～13:45 報告・連絡(理事長から)
- 13:45～15:00 講演「ひきこもりの当事者と家族の支え方」
香川大学教育学部准教授 臨床心理士
竹森元彦氏
- (休憩)
- 15:10～16:30 引き続き竹森先生による
グループカウンセリング
- 2) 場所 香川県社会福祉総合センター 6階 研修室
TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い
- 3) 参加費 会員：1家族 1000円 非会員：1家族 1500円

【今後の月例会】

- 4月18日㊦(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30
2010年度通常総会(予定)

㊦いつもは第4日曜日ですが、4月は、映画「アンダンテ」鑑賞協力のため第3日曜を予定しています。

- 5月23日(日) 香川県社会福祉総合センター 13:30~16:30

【居場所活動予定】

- 3月6日(土) 第10回運営委員会 (13:30~16:00)
○ 3月13日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00~13:00)
○ 3月13日(土) ポパイの会 (13:30~16:00)
○ 3月20日(土) パソコン教室(指導 さぬき若者サポステ) (13:30~16:00)

【ポパイの会(若者グループ)から】

2月20日(土)のパソコン教室に、始めて参加したOさんと二人でサポステの岡本先生に教えていただいたとおりに準備をした。マウス・キーボード・電源ケーブルを本体に接続した。でも電源が入っているのに画面が出てこない。先生が来られすぐ解決した。Oさんは始めてと思えないくらい、とてもテキパキやってくれた。

2月27日(土)は30分ほど遅れて行った。お茶の準備もいつものようにしていて、コーヒーも入れてもらった。高知で若者の交流会をしてはどうかとグローバルシップス神戸の森下さんから提案があった。女性三人で話し合っていた。Uさんがアルバイトにいらっているので日曜日はゆっくり休みたいと話していた。すんなりアルバイトという言葉が会話のなかに出てくるので、すごいと思った。

久しぶりにMさんがやってきた。話題がペットになり話しがはずんだ。お互いに携帯の写真を見せ合っていた。

Oさんの猫ちゃんがシーツのかかったお布団のなかで寝ている写真をみせてもらった。幸せそうだった。

【前回(2/21)の例会より】(一部、概略)

1 アナムネーシス サポート センター (心の故郷再発見事業)

講師: KHJ岡山きびの会会長 NPO法人津山・きびの会理事長
川島 かい三 氏

配布資料: 「相談員制度の充実を!!」(2008年KHJ全国大会・広島大会での発表原稿。KHJ全国連合会機関紙「旅立ち」48号に一部掲載)

「アナムネーシス サポート センター」(2009年KHJ全国大会・仙台大会での提案。別添)

「津山・きびの会」紹介リーフレット

「こころ病む人々への讃歌」(100行詩。「旅立ち」45号に掲載)

「KHJ岡山きびの会会報“メッセージ・21”第77号(2010年2月)」

私のところでは、3人の子供のうち2人が社会に出られない状態です。

2001年5月ごろ、週刊誌「サンデー毎日」にひきこもりに関する記事が載っていた。「KHJひきこもりの会」というのがあると言う。ところが、当時 県の精神保健福祉センターに聞いても他の病院でたずねても どこもその会のことを知らなかった。

その記事では、ひきこもり者の共通の特徴は、「やさしくて、シャイで、プライドが高い」だそうだ。これは、私が、自分の子はそうあってほしいと思って育てた内容だ。

今の社会は、そのような子どもらにとって、非常に生きづらいということだと思ふ。ひきこもらない子どもらは、それを適当に受け止め、やり過ぎ、あるいはごまかさなければ生きていけない社会です。けれど、何らかの因縁で、内に込めてじっと我慢するしかできなかった子どもはひきこもることになった。

私は、岡山県の津山市に住んでおりますから、この世界に関係するようになったのは、精神障害者の家族会である「津山しらうめの会」とのかかわりが始まりで、子どもを連れてその家族会が運営する作業所通いもした。

岡山では、2001年12月16日に「KHJ岡山きびの会」が設立され、その役員となりました。その後、2003年4月から、名前だけの3代目の会長を引き受けました。

山本昌知先生という精神科の世界では有名な先生が岡山にはおられ ひきこもりの問題に関して大変理解があり、きびの会では今年の1月例会でも講演して頂きました。その中で、先生が常に言われることがあります。自分を肯定したり、否定したり、相手を肯定したり、否定したりする関係をひきこもるご本人に当て嵌めて考えてみると、次のような関係が考えられます。

① I am OK. You are OK. ② I am OK. You are not OK.

③ I am not OK. You are OK. ④ I am not OK. You are not OK.

という4つの関係が考えられます。

① 場合、われもよし、相手もよしということで、理想です。そういう関係になれば、ひきこもることもありません。それがうまく行かなくなる場合がこの社会にはよく起こりますが、次のような状況が生まれます。②の場合、自分は良いが相手が悪いということで人に責任転嫁することです。③の場合、自分が我慢して相手に合わせる。自分が我慢したら、相手もわかってくれて①の理想的な状態を実現できることを期待することです。ところが、今日の資本主義の社会では、その期待は裏切られ、④の場合が頻発します。そんな期待を持った自分も駄目、相手も駄目、こんなもん、やっつけられるか、みんな悪い、ということになります。ひきこもる人の場合、②の判断ができにくいわけで、ひきこもる以前には、③の判断で、我慢に我慢を重ねてきたわけですから、それでうまくいかなかったのも、ひきこもる本人が相手を責める傾向を持つことになります。ですから、ひきこもる本人の自己肯定感を育てるためには、②の判断を育てながら、コミュニケーション訓練をすることが大切であるわけです。

「ひきこもり地域支援センター」については、新政権の誕生と取り組みに希望をもっている。この2月には国の主催する講演会やシンポジウムが次々始まった。「命を守りたい！」という鳩山首相の根本的な理念・その方針性には賛同します。誰もが「生まれてきて良かった」と思える社会を実現したい。

現在ひきこもっている人にもっと強いストレスを与え続けると、いわゆる精神的障害者になると私は考えます。岡山の会は「この子が居てくれて本当に良かった」と思える家族・会になることを目指しています。

「アナムネーシス」とは、プラトンの『メノン』編に出てくる例題から考えられます。魂はアイデアの世界（こころの故郷）を生まれる前に経験して知っていると言う神話から説明されます。それは、生まれてきてからの経験から、ちょっとした思い込みがあり、その視点をほんのちょっと変えるだけでガラッと変わった世界が見えてくる。⇒「心の故郷再発見」につながる。

具体的には、ご本人が気づかなければどうにもなりません。出来るだけご本人の意向に従いながら、ともに伴走をしていくサポーターが必要です。

① いいところを見つけて ほめてやる。

② できるだけわがままを許してやる。

いつまで待てばいいのか？命がついてしまうのではないかと、思うけれど、個々人にはそれぞれに「命のリズム」があり、それを認めて大切にすることが鳩山首相の「いのちを守る」ことになると思う。

これまでの人類の文明は西洋の自然科学が優位を占めてきましたが、東洋の無の思想を媒介にする必要があります⇒哲学的思考の訓練を行う。今の医療と福祉には、哲学的な視点が完全に欠落している。

その支点がふらふらしており、一貫性がない。「障害者自立支援法」も廃止となる。どのように一貫性を保つのか、当然問われてくる。

2009年度「医療福祉機構」の助成金を得て、「津山・きびの会」では、「ひきこもり者による自然農法的地産地消事業」を行っている。

2 川島さんとの質疑応答

問 津山・きびの会の活動内容は？

答 出来立ての「特定非営利活動法人津山・きびの会」のリーフレットを参考にして下さい。

① 相談活動

川島さんが中心になり受けている。今のところ、件数はそれほど多くはない。

② 居場所活動

第二火曜日は定例会で別の場所で行っているが、第二を除く火曜日。田園の中の民家（トトロの家）で。赤ちゃんからお年寄りまで、三障害者も視野に入れている。皆が一緒にやれるコミュニティを目指している。

③ 就労支援活動

農作業など、野菜のお店のお手伝いも含め、元気になったご本人のピアサポーターとしての役割を大切にしていきたい。

④ 啓発活動

こころの病に関する誤解や偏見や差別をなくしていくための講演会やバザー

問 ひきこもっている者は、がまんしてきた人か？わがままなのか？

答 甘え、わがまま、怠け、病人、患者？

親や周囲の人々が、表面だけを見て、いろんな見方をする。けれどそれは、必ずしも彼らの本当の姿や気持ちを理解してはいないと思う。

ひきこもりのきっかけはそれぞれあったと思うが、基本的にはがまんさせられてきたと思う。正当な自己主張をするほどの力が育っていない。自分の思いと他者の思いを調節することが苦手である。

問 先ほどのお話で言うと、うちの子どもは、I am not OK. なんです、結局④の I am not OK. You are not OK. に行ってしまうようなんです。「周りの人が私を否定している」と。本人が何をしたいのか聞きだそうとしても良く分からない。本人自身も分からないのかもしれない。

答 ひきこもる人々は、生まれてきたこと自身すら肯定できない状態にある。まず、本人が自分を肯定できる「I am OK.」になるように周りが支援することが必要だと思う。居場所やコミュニケーションが取れる場所へ自然と出かけられるようにしていくことが大切だと思う。

(参考) ① KHJ全国連合会機関紙「旅立ち」の過去の記事は、KHJ全国のホームページで見ることができます。<http://www.khj-h.com/index.htm>

② 山本昌知先生の講演内容は、「KHJ岡山きびの会」のホームページの「会報第78号(3月号)」に掲載される予定です。<http://kibinokai.ciao.jp/lecture.html>

(文責：堀井)

【内閣府主催／厚労省後援のひきこもり公開講座、シンポジウムが開かれた】

2月に入り、国主催の会が相次いで開かれました。

① 2月13日（土） 公開講座「ひきこもりを考える」主催：内閣府 東京大学で。

伊藤順一郎（国立精神・神経センター）、川上憲人（東京大学） 齊藤万比古（国立国際医療センター） 近藤直司（精神科医）氏等が参加。約1200名が聴講したそうです。

配布資料は、ホームページ http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/kouza_hikikomori.html でご覧になれます。

② 2月19日（金） シンポジウム「ひきこもり支援の新たな展開をめざして」主催：厚労省委託研究班 東京の日経カンファレンスルームで。

新村順子（東京都精神医学総合研究所）、水田一郎（神戸女学院大学）氏等が報告。研究者など160人が参加したそうです。

以下はKHJ調査部報告（KHJ情報掲示板から引用）

いわゆる「ひ（引）きこもり」という“状態像”をどのように理解し、どのように対応・支援するかの骨格が明確にされたと思います。公的にこのような精神医学的視点からの指針が示されることは、特に4月1日から施行される「子ども・若者育成支援推進（基本）法」との関係で極めて重要な意義を持つものと云えます。今回の公開講座は近く公表される新版「ガイドライン」の“内示”といった性格もあるようです。所管である内閣府→厚生労働省の承認を得て、この原案が（心情的には切ないことですが）歪められることなく公示されることを期待したいものです。そして、この内容は単に「子ども・若者育成支援推進（基本）法」の対象定義を与えるものに留まらず、広く現行および今後の精神保健・医療・福祉サービスの諸法制の裾野を広げ、法の隙間が埋められてゆくものになると思われま

精神科医中垣内正和博士の臨床的研究論文発表さる（KHJ親の会顧問）

☆ひきこもり問題に対する社会的認識は進んできたが、長期ひきこもりの実情と深刻さについては未だに見えていない☆

本論文では、新潟市佐潟荘などにおけるひきこもり外来を訪れた当事者172名から15年以上ひきこもった15名を“長期化群”として抽出した。長期化群は平均して17.3歳から開始、19.9年間ひきこもり、脱出時には37.4歳に達していた。

「日本嗜癲行動学会」の機関雑誌に発表

<http://www.iff.co.jp/book/adf/a20093/index.html>



若者 H. M. さん撮影
宗像神社（新居浜市）

【高知県のひきこもり地域支援センター関係予算】

KHJ 高知県やいろ鳥の会の坂本副会長から 2010 年度予算案情報を頂きました。

ひきこもりに関する行政の課題

- ①ひきこもりを自立支援するために保健福祉、医療、教育、就労等の各関係機関が連携出来るネットワーク作り。
- ②ひきこもりの自立支援に当たる関係機関の相談員等専門職員の知識や支援技術の向上。
- ③ひきこもり本人、ご家族が孤立せず、社会とつながるための居場所作り。
- ④相談窓口、家族会などひきこもり本人やご家族に必要な情報提供とひきこもりに関する正しい理解の啓発普及。

ひきこもり地域支援センターを中心とした取り組みの強化

ひきこもり自立支援対策費の予算額

H21当初7770千円 → H22年当初6074千円 となりました。

①関係機関連絡会議【290千円→211千円】

- ・関係機関連絡会議の開催によるネットワーク作り
- ・支援コーディネーターなどが出向き事例検討会の実施

②ひきこもり対策担当者人材養成研修会【210千円→477千円】

- ・年2回開催
- ・対象者は市町村の保健師、地域活動支援センター、福祉保健所などの各種相談機関の担当者

*平成23年度末までに全ての市町村の保健師、地域活動支援センターの職員などに対する養成研修を実施

③ひきこもり本人、家族の居場所づくり【0千円→112千円】 **新規**

- ◆ひきこもり本人が集い活動出来る場の整備
 - ・精神保健福祉センター内(料理作り、室内スポーツなど) 週に1回
- ◆家族サロンの開設
 - ・精神保健福祉センター内 週に1回

④普及啓発【433千円→388千円】

- ◆ひきこもり支援ガイドブック、相談機関リーフレットの作成・配布
- ◆ひきこもり支援普及啓発地域研修会
 - ・圏域毎に4カ所開催(対象者:当事者、家族、民生委員、各種相談機関の担当者)



若者 H. M. さん撮影
四国巡礼の創始者といわれる
衛門三郎の像(石手寺。松山市)

【ひきこもり保護者セミナー】

さぬき若者サポートステーション(電話 0877-58-1080)の鷺見所長からのお知らせ

第2回 3月9日(火)「青年期の発達課題について」

第3回 3月16日(火)「親子のコミュニケーションについて」

講師:浅田みちる氏(KHJ徳島県つばめの会副会長、臨床心理士。オリーブの会でも1月例会で講演して頂いた。)

場所:藤井学園(丸亀市新浜町1丁目3-1。JR丸亀駅より徒歩5分。)

3回のセミナー(第1回は開催済み)となっていますが、1回でも2回の出席でもOKとの事。

以上